序章　バングラデシュ人民共和国の概要

バングラデシュはこの半世紀の内に２回の独立を経験している。第 1 回は英領インドの崩壊に伴う宗教的混乱からパキスタンの一部として 1947 年 8 月に、第 2 回は 1971 年 12 月にパキスタンから、独立し、政体は共和制である。14.4 万平方 km の国土（日本の約半分）に 126 百万人（1998 年時点）の人口を有し、狭い国土に多数の人口そしてモンスーンと洪水に悩まされる、世界の最貧国の一つとして知られている。首都はダッカで、公用語はベンガル語である。通常使われている言語はベンガル語と英語で、民族はベンガル人である。宗教はイスラム教・ヒンズー教・仏教・キリスト教である。
人口は 127 百万人（'99)、人口増加率 1.6%('99)、都市人口率 24%('99)となっている。

バングラデシュの使用通貨はタカ（TK)で 2000 年 9 月現在１TK=2.119 円、1999 年の GNP 総額は 440 億米ドル、一人当たりの GNP は 349 米ドルの経済状態である。エネルギー消費は、アジアではカンボジアとネパールに次いで低く、一人当たり 200kgoe(kilo-gram-oil-equivalent)である。

1998 年時点での、輸出入バランスは輸出＝3.8 百万米ドル・輸入＝6.7 百万米ドル、生産構造は農業＝23%・工業=28%・サービス＝49%で、1990-1998 年の生産の伸びは農業=3.4%・工業＝6.7%・サービス＝7.9%となっている。また、HDI(Human Development Index)値は 0.440 で、1997-1998 年のインフレ率は 5.5%であった。

バングラデシュには、ジャムナ・パドマ・メグナ川水系が北から南そして東南へ流れ、国を二つに分断している。国土が平坦であるため包蔵水力源には限りがある。石油の可採埋蔵量は約 51 百万バーレル・天然ガスの埋蔵量は 9TCF である。水力および天然ガス資源とも東部に偏在している。

一方、バングラデシュの北西部に位置するバラプクリア(Barapukuria) 地点で、1980 年代に埋蔵量が 3 億トンを上回ると言われる瀝青炭鉱が確認され、中国との合弁会社で年間 100 万トンの生産を目論んだ計画が進められている。

電気の利用は人口の 2 割弱（18%と公表）で人口１人当たりの発電量はようやく 100KWH（1999 年で 106.5／年人と公表）という先進国の１～２%のレベルであるバングラデシュの現状電力分野ではあるが、自然環境の視点からバングラデシュ電気事業を見ると以下のようなプラス面がある。

(1)　天災は洪水とモンスーンのみ、すなわち電力設備は低コストで建設可能。
　・洪水は定期的であり予測と対応が可能

・モンスーンの風速も大したことない

・地震、山崩れ、雪崩、着氷、津波、塩害などへの配慮無用

(2) 土地が平坦で大河川が国内を通過しているので、設備建設が容易で低コスト。

・電線路の建設は容易

・発変電所の大型重量機器の運搬も容易

(3) 人口密度が高いので、電力普及に好条件。

・電気利用の普及は人口密度の高いところから開始

・需要密度が高いと配電コストが低く電気普及が容易

(4) 国内エネルギー資源の存在。

・国内に豊富な天然ガス埋蔵を発見

・パイプ輸送可能

・電力需要地の近傍に発電所設置可能

(5) 先進国で開発・実用化された技術を導入し R&D 費用の節減。

・バングラデシュ国に限らず発展途上国共通のメリット

・先進国が多大の労力と資金を投じ幾多の苦い失敗を重ねようやく実用化した技術を公開された技術として簡単に入手利用

バングラデシュ電力セクター状況を概観するため、1999 年度の事業成績を以下に示した。

事業体	Generation Share		Distribution Share		Distribution Losses	Revenue Collections
	GWh	%	GWh	%	%	%
BPDB	13,056	96	3,725	40	23	71
IPPs	578	4	-	-	-	-
DESA	-	-	3,362	36	25	75
DESCO	-	-	205	2	41	58
REB(PBSs)	-	-	1,989	22	19	94
TOTAL	13,634	100	9,281	100		

出展： Paper prepared by Asian Development Bank

注 ： 事業体名は「略号と英語・日本語の対応」を参照。